

---

**リリシズム 浪漫ロマンス 色々 大連**

matsuura

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リリズム 浪漫ロマンス 色々 大連

### 【Nコード】

N7831T

### 【作者名】

m a t s u u r a

### 【あらすじ】

今、厳しい日本の現実に疲れがちな人が、浪漫ロマンスを求めて大連にやって来る。

大連という名前は、ロシアが東清鉄道の終着駅を設けて、「ダーリーニー」；「遠い」と、名付けたのが由来らしい。

大連では、浪漫ロマンスが時代を超え、形を変えて生きているようだ。

作者も、日本では与えられない安らぎを大連で与えられたひとり

だ。  
1  
1  
0  
5  
2  
0  
d  
N  
o  
v  
e  
l  
s  
投稿

大連は、日本人の故地<sup>こち</sup>である。

魏晋の時代には三山と呼ばれ、唐代には三山浦、明清時代には三山海口、青泥<sup>チンニコウ</sup>?口と称された。

その後、ロシアが東清鉄道の終着駅を設けて、「ダーリーニー」(遠い)と、名付けた。それが、「大連」という名前の由来らしい。

今の大連駅は1937年に建てられた。東京の上野駅と似ている。作りは、空港のような構造で、2階が出発ホーム、1階が到着ホームになっている。大連駅の北口には凱旋広場がある。地下鉄は建設中だ。

大連港はアジアでも有数の港で不凍港だ。貿易の拠点として整備された。4つの埠頭がある。ロシアがひとつ、残り3つを日本が建築した。

終戦時には、多くの日本人大陸引揚者が大連港から舞鶴へ帰国した。

大連の市街地は、パリをモデルにして都市創りが行われた。今は、センチメンタルジャーニー世代の旅行者も減り、都市再開発でその風情も薄れて来た。

大連市政府の前の広場にあったスターリン像も、旅順に引越した。ここにも、思想と時代の変遷を感じる。

大連は、浪漫ロマンスを感じさせる。感じる浪漫ロマンスは人それぞれだ。何に、浪漫ロマンスを求めるのかも人それぞれだ。

浪漫<sup>ロマン</sup>とは

一、浪漫<sup>ロマン</sup>には、経緯<sup>タテヨコ</sup>がある。壮大なスケールの構想とドラマチックな筋立てを経<sup>タテ</sup>とし、青春の叙情性<sup>リシズム</sup>と深く湛<sup>た</sup>えられた神秘性<sup>ヨコイテ</sup>などを緯<sup>ヨコイテ</sup>として織り成された物語だ。

二、厳しい現実(退屈な毎日の生活)に疲れがちな人々が、潤いや

安らぎを与えてくれるものとしてやまない世界。または、それを求める心だ。

ロマンスとは、自分も肖<sup>あやか</sup>りたい清纯で理想的な恋愛。

大連は、坂之上の雲でも舞台になった旅順203高地がある。老鉄山という温泉は安らぎを与えてくれる。

大連には浪漫ロマンスが良く似合う。浪漫ロマンスも色々な形に変形する、人それぞれだ。気疲れしない街だ。

大連に来た日本人で、鯛焼きを焼く小母さん、コロッケ屋を開業したヤンキー風のお兄ちゃん、語学研修に来て和服でヤングチャイニーズを追いかける小母さん、野球三昧、ゴルフ三昧、カラオケ三昧など様々な生活を楽しんでいる日本人がいる。コストパフォーマンスオンリーの旅行者もやって来る。

彼らにとつて、今の大連は「王道楽土」（公平で思いやりのある政治が行なわれている平和でたのしいところ）なのだ。

彼もその一人だった。彼は、大連ソフトウェアパークに在る日系のコンピュータ会社で働いていた。転勤で大連に来た。彼はこの会社に入社する前、水商売をやっていた変り種だ。

当初、彼は、フラマホテルに住んでいた。食事は外食だ。夜はいつも、フラマホテルから歩いて3分ぐらいの「郷里<sup>きょうり</sup>」という居酒屋で食事をしていた。私も、彼と「郷里」で知り合った。私の10年来の友人が、その居酒屋で料理長をしていた。

彼は、その居酒屋で彼女と巡り合った。彼には、運命の出会いがあった。彼女はその店で服<sup>ウェイトレス</sup>務員をしていた。彼は中国語ができないが、彼女は日本語が堪能だったので、二人の意思疎通は難しくなかった。彼は一人暮らしが退屈で寂しく、時が経つにつれて益々彼女に夢中になった。彼は、フラマホテルからアパートに引っ越して、彼女と同棲<sup>トシユキ</sup>した。彼女も「郷里」を辞めた。独り占めしたいという双方の利害関係が一致した。

私たちは、彼らの行方に興味津津だった。

しかし、彼らの幸せな生活も長続きしなかった。彼が大連に来て

から3年目に、東京支社への転勤の辞令が下りた。

彼は、東京に帰りたくなかった。色々な手段を使って帰国を引き伸ばしたが、引き伸ばし工作にも限界があった。

彼は、寂しく東京に帰った。

「離婚して欲しい」と、彼は彼の妻に言った。

「突然、一方的に離婚話をされても困る」と、彼の妻は言った。

離婚調停は、養育費や慰謝料の問題で長引いた。彼が大連から居なくなつて3年経った。

離婚の話し合いも落ち着いて、今年、彼女と東京で結婚する。彼が、大連へ来ることができない間、彼女が東京へ彼の面会に行った。

彼は、転勤で大連に来て、浪漫ロマンスを拾って帰った。

転勤は、企業の中で勤務地が変わることだ。

現実には、転勤で大連にやって来て、浪漫ロマンスを拾って帰る人が多い。

厳しい日本の現実（退屈な毎日の生活）に疲れがちな人々が、日本では与えられない潤いや安らぎを求めて大連にやって来る。

哀愁を伴うような青春の叙情性リリシズムを取り戻し、忘れかけていた浪漫ロマンスを見つける。

浪漫ロマンスを見つけたと同時に、悲惨な家庭の崩壊が待っているケースも少なくない。

大連の人々は、今でも日本の男を「大男人主義ダイナンレンジュウイ」だと思っている人が多い。

だが、この言葉は日本語ではない。

意味は、日本の「亭主関白」に近い。女性は、男性の言うことを聞かなければならないという考え方を指す。

結婚前の独身の段階から「大男人主義」と言う言葉を使うので、

「亭主関白」とも少しニュアンスが違う。

「大男人主義ダイナンレンジュウイ」という言葉は、台湾から大陸へ渡って来たと推察する。

「日本は今でも大男人主義が、罷り通っているのか」と、大連の人

によく問われる。

そのたびに、

「日本には大男人主義と言う言葉は無い。そのように外国人の目に映るのだ。日本の女性は賢く、日本の男はアンダーコントロール（Under Control）されている」と、私の友人は答える。今でも、大連のテレビドラマで、日本の「大男人主義」の場面が出てくると視聴率が上がるそうだ。「大男人主義」という言葉には大きな印象を与える力がある。一方、「大男人主義」は、日本人に強い興味を抱かせる力も有する。

その辺に、大連女性は、日本人男性の神秘性を感じるのだろう。だから、大連でも、日本人男性の人気がある。

日本人から見ると、日本から近くて、外国語が不得手な日本人男性が、外国人女性と一番簡単にコミュニケーションが取れる場所なのだ。

「大男人主義」と日本人男性の人気とは、紙一重のようだ。

日本で、厳しい現実（退屈な毎日の生活）に疲れがちな人々が潤いや安らぎを求めて大連にやって来る。現実には、コストパフォーマンスオンリーの旅行者が多い。

そんな人たちを「大男人主義」と呼べるのだろうか。

しかし、その潤いや安らぎを与えてくれるものとしてやまない世界が大連にはある。

大連では、ほんとうによく肩が凝る。テレビの健康番組で湿度の低い地方では肩が凝り難いと言っていた。しかし、大連に来てから、以前よりも肩こりが激しくなった。

その証拠に、大連の至るところでマッサージや按摩の類の店の看板や広告を見る。各病院の中医部門にも、中医の按摩療法の部署が設けられている。

大連の気候は、年中湿度が低くて乾燥している。夏でも、日陰に入ると涼しくて暑さを感じさせない。冬は、風が強く、雪は降らない。けれども、体感温度は非常に低い。このような気候も、浪漫口

マンス大連にはぴったりだ。

何回も言うようだが、大連に居るとよく肩が凝る。

中山区のフラマ南山ホテル（旧南山賓館）の側に「若石足道」という名前の按摩屋さんがある。この按摩屋さんは、按摩だけで自社ビルを建てた。

この按摩屋さんで知り合ったのが、建設会社に勤務していた彼だった。大連で、彼は人気のある日本人の独りだ。彼は、中国語を専攻していたので、中国語はできる。どの程度できるのかは分からない。しかし、彼は中国語をあまり話さない。彼の周りには、日本語ができる中国人が集まって来る。

その日、彼は映画を見た。大連の友好広場にある友好電隠館という映画館の同じ席で、朝昼晩取っかえ引っかえ、三人の女性と順々に映画を見た。映画の題名は「シャンハイ・

ヌーン」。ジャッキーチェン主演だ。大好きなジャッキーチェンの映画でも、一日に3回も見るとさすがに疲れる。彼は、三度目の映画を見ている最中に熟睡した。大連は、こんなことも可能な街なのだ。厳しい現実に疲れがちなジャパニーズが潤いや安らぎを求めて大連にやって来る気持ちも分かる。

昔、浪漫ロマンス大連に「ダイナンレンジュウイ大男人主義」が似合う男が居た。

彼は、三味線太郎と呼ばれた。三味線太郎と呼ばれた理由は、彼が奈良連隊に三味線持参で入隊したからだ。入隊後、彼は満州各地の警備に当たった。

当時、満州では、匪賊が増え、略奪・虐殺が横行して、住民は塗炭の苦しみに喘いでいた。

彼は二等兵で入隊、除隊時も二等兵だったという兵だ。つわもの

除隊後、彼は、家族を日本に残して開拓団の団長として独りで満州に渡った。

広場で銃殺されそうになっていた白系ロシアの娘さんを銃殺から助けた。後に、その娘さんが彼の命を救った。

終戦の際に、今度は同じ広場で、開拓団の団長だった彼は銃殺さ



れそうになった。突然、その娘さんが飛び出して来て銃殺から彼の命を救った。

その彼は、孤児みなしこの少女を一人連れて引き揚げて来た。

少女を連れて帰って来た彼に、彼の家族は冷たかった。しかし、彼は一切弁解しなかった。

彼は、この少女の身元が分かるまで面倒を見た。

後に、この少女はNHKのラジオ放送で照会されて身元が判明。無事、家に帰ることができた。この少女の父親は、お医者さんだった。

大連の浪漫ロマンスは、時代と共に変遷して来た。

私も、大連という街に、今の日本では与えられない安らぎを与えられたひとりかもしれない。

しかし、私は新しい安らぎを求めて「梅河口（メイハーコウ）」へ移った。了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7831t/>

---

リリースム 浪漫ロマンス 色々 大連

2011年6月3日14時40分発行